



# きした 敬 二 木下けんいち 千葉県議会レポート

発行/自由民主党千葉県議会議員会

〒260-0855 千葉市中央区市場町2番13号 電話043(227)7411

## 肥料高騰 農業を直撃

### 早急な対策望む

鴨川市・南房総市・安房郡選出で議会運営委員長  
の要職を務める木下敬二議員は、9月県議会の一般  
質問に登壇。農業、酪農、水産業、防災対策について  
安房地域を中心に千葉県の課題をあげ、当局の姿  
勢をたどりました。その概要をご紹介します。

#### 1 農業問題

木下議員 2021年以降、肥料価格の上昇が農業に大きな打撃を与えています。このため農林水産省は、化学肥料の2割低減に取り組み農家に対し、コスト上昇分の7割を補填する方針を示している。しかし、農家は適応条件への対応に苦慮していると聞いている。

#### 栽培マニュアルの作成

農林水産部長 県では、通常より化学肥料を5割減らした「ちばエコ農業」を推進するため、これまで36品目の栽培マニュアルを作成し、ま

#### 2 酪農

木下議員 嶺岡乳牛研究所は、日本の酪農発祥の地である安房・嶺岡の地にあり、明治44年の開所以来、研究や技術指導など農家に寄り添った指導を

続けている。なくてはならない存在だ。安房地域の酪農家は、本県の約25%を占めるが、近年、後継者不足、高齢化等で戸数が減少している。

#### 嶺岡乳牛研究所の今後

木下議員 研究所は、地元の意見伺いながら、センター全体の機能強化を図られるよう検討を進めてまいります。

#### 地域と連携した取組

木下議員 国が目標とする食料品自給率45%のためにも、農家が再生産できるように、生産コストを反映した価格形成の枠組みづくりを国へ働きかけるべきではないか。

#### 農林水産部長

国では、消費者や小売店の理解を得ながら、円滑な価格転嫁のための環境整備を進めていくこととしておりますが、こうした環境整備には時間を要することから、県では、緊急措置として肥料や飼料の経費の部に助成を行うこととしました。

#### 農林水産部長

また、生産者が自ら価格を決定できる直売所やネット販売、契約取引などの拡大を図り、安定的に収入を確保できるような的確に対応してまいります。

### 酪農振興へ

### 地域と連携し取組を

#### 所の今後のあり方について

農林水産部長 研究所を含めた畜産総合研究センターは、多くの施設が老朽化しており、全体の機能強化につながるよう見直しを進めていく必要があります。

#### 農林水産部長

研究所は安房地域のシンボルとしての役割を果たしている一方で、敷地の多くが土砂災害警戒区域に指定されているという課題も抱えております。

#### 農林水産部長

これらを総合的に実施して生乳生産量の確保に取り組んでまいります。

#### 農林水産部長

研究所は、堆肥を活用した耕畜連携や安房拓心高校への技術指導など、地域と連携した取組を進めるべきだと考えるがどうか。

#### 農林水産部長

研究所では、耕種農家から提供された稲わらを利用して堆肥を、耕種農家に配布して活用いただいております。今後連携に取り組んでまいります。

#### 農林水産部長

また、安房拓心高校は、農業後継者育成に重要な役割を担っており、研究所では、①体験実習の受入れ②専門的技術に基づいた現地指導・支援一を実施してまいります。今後、同校と連携し、専門技術習得に向けた指導

入などが考えられます。このような取組は、国の交付金制度の対象となり、この制度を活用しながら、地域の実情に応じ、観光資源にもなっている良好な環境の維持を図ってまいります。今後、地域計画などの話し合いが各地域で行われることになり、県も積極的に参画し、耕作放棄地解消や持続的な利用について、観光面も含め検討がなされるよう努めてまいります。

#### 耕作放棄地の問題

木下議員 農業従事者の高齢化、後継者不足、資材価格の高騰、販売価格の伸び悩みと、負の連鎖が続き、営農意欲の低下から、耕作放棄が目につく。一方、耕作放棄地を再生し、昔ながらのレンゲなどを地域資源として利用している所もある。

#### 農林水産部長

耕作放棄地を永続的に解消し、観光資源として活用する考えはどうか。

#### 農林水産部長

耕作放棄地を再生して永続的に利用するためには、収益の見込める作物導入による安定的な営農が望まれますが、それが困難な場合には、地域がまとまって栽培できる作物導

#### 農林水産部長

策を契機に、輸入原料に依存している化学肥料の低減や堆肥などの地域資源の活用を進めるとともに、肥料価格の推移を見守りつつ国の動向を注視してまいります。

#### 農林水産部長

今回の対策を契機に、輸入原料に依存している化学肥料の低減や堆肥などの地域資源の活用を進めるとともに、肥料価格の推移を見守りつつ国の動向を注視してまいります。

#### 農林水産部長

今回の対策を契機に、輸入原料に依存している化学肥料の低減や堆肥などの地域資源の活用を進めるとともに、肥料価格の推移を見守りつつ国の動向を注視してまいります。

#### 農林水産部長

今回の対策を契機に、輸入原料に依存している化学肥料の低減や堆肥などの地域資源の活用を進めるとともに、肥料価格の推移を見守りつつ国の動向を注視してまいります。

#### 農林水産部長

今回の対策を契機に、輸入原料に依存している化学肥料の低減や堆肥などの地域資源の活用を進めるとともに、肥料価格の推移を見守りつつ国の動向を注視してまいります。

#### 農林水産部長

今回の対策を契機に、輸入原料に依存している化学肥料の低減や堆肥などの地域資源の活用を進めるとともに、肥料価格の推移を見守りつつ国の動向を注視してまいります。

#### 農林水産部長

今回の対策を契機に、輸入原料に依存している化学肥料の低減や堆肥などの地域資源の活用を進めるとともに、肥料価格の推移を見守りつつ国の動向を注視してまいります。

#### 農林水産部長

今回の対策を契機に、輸入原料に依存している化学肥料の低減や堆肥などの地域資源の活用を進めるとともに、肥料価格の推移を見守りつつ国の動向を注視してまいります。

#### 農林水産部長

今回の対策を契機に、輸入原料に依存している化学肥料の低減や堆肥などの地域資源の活用を進めるとともに、肥料価格の推移を見守りつつ国の動向を注視してまいります。

#### 千葉県面積の多くを占める中山間地域を、条件不利とマイナ

スに捉えるのではなく、逆に特性・特徴として捉え、地域が活性化する取組を要望する。

#### 苦しい酪農家の経営

木下議員 本県は全国有数の牛乳産地だが、酪農経営の厳しい状況が続いている。この現状をどう考えるか。

#### 農林水産部長

乳価の低迷や飼料価格の高騰により、酪農家の経営は極めて厳しい状況にあると認識しており、これを踏まえ、県では、6月補正予算で飼料高騰に対応した支援策を講じたところであります。

#### 農林水産部長

国でも、酪農対策として、乳牛1頭当たり1万円の支援を決定しました。県は、これら支援策の早期実施に努めるとともに、牛乳・乳製品の需要拡大を図り、酪農家を支援してまいります。

# 万全な防災対策へ

## 土砂災害警戒区域

# 区域指定は急務



木下議員 自席から再質問する

### 1 防災対策

#### 土砂災害警戒区域の指定

木下議員 令和元年10月の大雨では、がけ崩れにより4名の尊い人命が失われたが、3箇所の現場は何れも土砂災害警戒区域に指定されていた。更に、国が改訂した基本指針に基づき、昨

の指定数は、現在の位になつたのか。また、今後の見込みはどうか。

年度、約1万箇所を追加で調査対象としたところです。現在、詳細な現地調査に着手しており、完了した箇所から指定を順次進め、令和7年度末までの指定完了を目指してまいります。

県土整備部長 県では、これまで11,230箇所を土砂災害警戒区域に指定しました。更に、国が改訂した基本指針に基づき、昨

### 2 津波浸水予測システム

#### 津波浸水予測システム活用

木下議員 現在国が対策を進めている日本海溝・千島海溝地震について、国の中央防災会議で本県の銚子市など27市町村が、地震防災対策推進地域に指定された。国の想定によると、本県では約200人を超える死

者が想定され、その対策は喫緊の課題だ。

県では、平成30年には、国の津波観測システムを活用した独自の「津波浸水予測システム」の運用を開始し、体制を強化したという。私は、このシステムは非常に有効と考えるが、災害時にどのように活用するか。

防災危機管理部長 このシステムは、東日本・太平洋沿岸沖合の津波に関するデータをもとに、海岸線の津波の高さや到達時刻、浸水範囲、浸水の深さなどを予測するものです。

県では、予測結果をもとに、津波発生後の救済活動や、被災市町村への迅速な人的・物的支援など、災害対応に活用しています。本年7月からは、気象庁の許可を得て、勝浦市、鴨川市、いすみ市、二宮町の4市町に配信が可能となり、

活用した迅速かつ的確な津波対策に努めてまいります。予測地域の拡大見込み

木下議員 このシステムの配信対象地域を拡大する見込みはどうか。

防災危機管理部長 配信対象地域拡大についても、気象庁の認可を受ける必要があることから、気象庁と協議を進め、早期に認可を得て配信地域を拡大できるように、努めてまいります。

# 安房の水産業を守れ

### 3 水産業

#### 木下議員 安房地域では、アワビなどの磯根漁業

季節ごとに来遊するサバ・ブリ等を捕獲する定置網漁業など様々な漁業が営まれ、また水揚げされた地魚を利用した水産加工業も盛んに営まれている。

しかし、海洋環境の変化から、魚の種類・来遊時期の変化・漁場の磯焼けの発生などもあり、漁業者から「将来への不安が増している」という声も聞かせる。

#### アワビ増産への取組

#### アワビの増産に向けた取組状況はどうか。

農林水産部長 県では、アワビ資源の増大に向け種苗放流を実施しており、生産を委託している千葉県水産振興公社と連携し、飼育環境の改善に努めております。

また、放流と漁獲を4年サイクルで行う輪採漁場の整備を推進するとともに、漁場の生産力を向上させる管理手法の改善に取り組んでいるところです。

さらに、一部海域で磯焼けによる藻場の消失が見ら

れるため、藻場の監視や有害生物駆除などに取り組み、アワビの増産対策を総合的に推進してまいります。

「二つの問題点を洗い出し、その知見をもとに増産体制を知りたきたい。高値がいつまで続くかは保証がない。とにかく増産体制を構築していただくよう強く要望する。」

漁業の生産性向上に向けた取組状況はどうか。

知事 漁業の生産性の向上を図るためには、省力化に

資する機器や新技術の導入などにより操業の効率化を進めることが求められます。

そこで県では、定置網漁業において、新素材漁具や高性能作業機器の設置により作業性を向上させた改革型漁船の導入を支援しています。また、漁船漁業に対しては、効率的な漁場探索に役立つ漁海況情報を提供しているところです。

さらに、定置網漁具の被害を未然に防止するため、急激な潮流の変化を予測するシステムの開発や、漁業者

が入力した操業情報をもとに漁場予測を行うシステムの導入支援など、ICTを活用した生産性の向上に取り組んでまいります。

#### 水産加工業振興への取組

#### 消費者ニーズを捉えた水産加工業の振興に向けた取組状況はどうか。

知事 水産加工業の振興には、消費者ニーズを捉えた加工品を開発し、衛生的で処理能力が高い施設で生産するとともに、ブランド化により付加価値を高めていくことが必要です。

そこで県では、消費者が手軽に食べられるファストフィッシュ商品や、未利用魚を活用した新商品を開発す

る加工業者に対し、技術支援を行っています。また、高度衛生管理に対応した加工施設や、ヒジキの共同加工施設の整備に対して助成しているところです。

更に、地元水産物を利用した優れた加工品を千葉ブランド水産物に認定し、事業者と連携したPRなどの取組を進め、地域水産加工業を振興してまいります。

水産加工業者は、販路の拡大新規商品への取組など、やる気のある方は付加価値をつけて頑張っている。水産総合研究センターの技術支援をいただきながら40軒以上の加工業者の底上げを要望する。

このシステムを着実に運用するための取組はどうか。

防災危機管理部長 このシステムを適切に運用するため、習熟訓練や予測情報の適切な理解を深める研修会などを行っており、実践的な訓練として本年度は、鴨川市で開催を予定しております。今後、システムを

活用した迅速かつ的確な津波対策に努めてまいります。予測地域の拡大見込み

木下議員 このシステムの配信対象地域を拡大する見込みはどうか。

防災危機管理部長 配信対象地域拡大についても、気象庁の認可を受ける必要があることから、気象庁と協議を進め、早期に認可を得て配信地域を拡大できるように、努めてまいります。

## ●鴨川・南房総地域の声を県政へ

**木下けいじ 県事務所**

〒295-0005 南房総市千倉町牧田164-1 TEL.0470(44)4111 FAX.0470(44)4112

●木下けいじ公式ホームページ=<http://kishitakeiji.com/> ●Eメール=[info@kishitakeiji.com](mailto:info@kishitakeiji.com)